

1 学校として目指す授業

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を通して、児童の学力の定着を図る。～ICT機器の活用と小学校教科担任制の趣旨を生かした、児童の意欲を引き出す授業～

2 児童の現状

(1) 「全国学力・学習状況調査」の分析 (小学校6年生)

学力・学習状況調査の分析	生活習慣や学習習慣に関する質問紙調査の分析
<p>・学力調査に関する本校の平均正答率は、どの教科も全国や東京都の平均正答率よりも高い結果となった。評価の観点について、突出して全国平均より高いものはなかったが、問題別に見ていくと、思考力・判断力・表現力等を問う問題が高い正答率であった。</p> <p>・平均正答率が高い一方で、無回答率が全国平均より高い問題も見られたので、学力差があることが分かる。個に応じた支援を行うことが必要である。</p>	<p>・自己肯定感を問う質問や将来の夢に対して概ね肯定的な意見であることから、前向きに生活できていることが分かる。一方で、いじめに対する意識が低い。</p> <p>・携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っている」という質問に対して、あまり守っていない、約束はないと回答した児童も約20%いた。家庭との連携が必要である。</p>

(2) 東京都「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の分析 (小学校4～6年生)

・「授業の内容に対する理解の程度」の調査では、4～6年生とも、全ての教科において「よく分かる」と回答した児童の割合が東京都の平均を上回っている。

・「学習の動機」の調査では、「分かることやできることが楽しいから」「将来の仕事や生活に役立つから」と回答した児童の割合が大きい。

・「学習の進め方」の調査では、「確実にできるようになるまで、くり返し練習している」と回答している児童の割合は、東京都の平均を上回っているが、7割程度である。分かることやできることの楽しさを味わわせ、個に応じた指導や支援を繰り返す必要がある。

(3) その他の資料を活用した分析

活用した資料名及び分析結果

教科に関するアンケート/ワークシート/ワークテスト等

→教科に関する興味関心は高く、楽しく授業を受けている。しかし、適用問題やワークテストの結果にはなかなか反映されず、知識の定着に結び付いていないことが分かる。

3 児童の学力・学習状況等の課題

・学力・学習状況に個人差が大きく、支援を要する児童が各学年7～8人いる。

・基礎基本の学力（四則計算、漢字）が定着していない児童が各学年4～5名いる。

・自分の考えや意見を文章で表現することが難しく、時間を要する児童が各学年4～5名いる。

4 学校全体の授業改善の視点

・学ぶ意欲を引き出したり、自分の考えや意見を整理・表現・共有したりするために有効なICT機器の活用をする。

・診断的・形成的・総括的評価による児童個々の状況把握を基にした各教科の個に応じた適切な指導の実施をする。

5 各教科における授業改善の方策

	国語	評価	社会	評価	算数	評価	理科	評価	生活	評価	音楽	評価	図画工作	評価	家庭	評価	体育	評価	外国語	評価	道徳	評価	
低学年	・学習意欲を高めるためにICT機器を活用し、動画や写真、図などを提示する。				・児童の学習意欲を向上させるために、ICT機器を活用した教材提示を行い、共有や習熟の場面でもタブレット端末の機能を活用する。				・季節探して見つけたものを写真や動画に撮り、友達と共有をする。		・録画・録音機能を使って演奏の振り返り、比較したり、聴取したりする。		・カメラやインターネット機能を活用し、表したいものを撮影したり調べたりする。				・映像や演説などによる手本を示し、達成のための練習方法を知らせる。また、思いを伝え合うことで、上達のための様々な方法があることを学ぶ。				・挿絵をPDF化し、映像として映す。		
中学年	・朝学習や補習時間に、タブレット等ICTの活用を中心に、様々な学習を通して、個に応じた基礎的・基本的な知識の底上げを図る。		・本時の課題を明らかにして、その解決に向けた調べ学習を行い、授業の終末で、課題に対する答えを自分の言葉で書かせる。		・児童の学習意欲を向上させるために、タブレット端末を用いたゲーム活動等を行い、習熟の場面でもオンラインコンテンツを活用する。		・タブレットで動画や写真を使い、学習意欲を高めたり、理解を深めたりする。		・習熟度別に振り返りを行い、知識の定着を図る。		・スカイメニューやTeamsを活用し、資料を配布したり、児童の考えを集約して学級全体に共有したりする。		・Teamsの投稿機能を活用して情報交換する。				・映像などによる手本を示し、達成のための練習方法を自分で選択する。また、話し合いによる意見交換の場を作り、上達のための様々な方法があることを学ばせる。				・挿絵をPDF化し、映像として流す。		
高学年	・ICT機器を活用し、考えを表現したり、共有したりする時間を設定するとともに、個に応じた手立てを丁寧にとることによって、学力の底上げを図る。		・学習問題や学習課題に対して、その解決のための見通しをもって学習に取り組む習慣を身に付ける。		・児童の学習意欲を向上させるために、タブレット端末を用いたゲーム活動等を行い、問題・資料の提示や習熟の場面でもタブレット端末の機能を活用する。		・タブレットを使って、デジタル教科書やインターネットの状の資料を活用し、導入時に意欲的に取り組める工夫をする。		・スカイメニューやTeamsを活用し、資料を配布したり、児童の考えを集約して学級全体に共有したりする。		・スカイメニューやTeamsを活用し、資料を配布したり、児童の考えを集約して学級全体に共有したりする。		・画像編集ソフトを活用してデジタル作品をつくる。		・調べ学習や動画・資料配布など学習内容に応じて効果的に使い分けて活用する。			・毎時間のテーマや達成課題を明示し、その課題に対して個々の練習方法や意識ポイントを考える。できる限り考えたり話し合ったりする時間を設け、思考しながら実践する機会を大切にする。				・教科書のデジタル教材を活用し、児童が英語を聞いたり話したりする活動を多く取り入れる。	